

令和8年度 「神すぎるタイム」について

生活部

1 令和8年度 研究主題

他者と協働し、課題を主体的に解決しようとする児童の育成
～地域とともに共創する「神すぎる未来プロジェクト」の創造を通して～

2 「神すぎるタイム」の位置づけ

(1) 本校の研究推進

本校では、昨年度から総合的な学習の時間の授業を中心に据えて研修を進めてきている。「神すぎる未来プロジェクト」と名付け、地域の願いや課題を踏まえて、児童全員が「神杉の魅力を残したりもっと引き出したりしていくために自分にできることは何だろうか？」という本質的な問いをもち、自分事として探求的に納得解を構築していく過程を通して、自己の生き方について考えていくための資質・能力を養う一連の流れの実現を目指し、研修・実践をしてきた。

今年度は、生活科・総合的な時間を中心に、

- ① 探究的な学習の過程を児童がより主体的に回していくために必要な手立てや指導の工夫について学びを深めていく。
- ② 「神杉合い言葉」を基に、自律的・協働的な学びを促す指導の工夫を通して、その有効性を実践的に検証していく。

の二点を重点に研修を進めていく。

(2) 教育課程柔軟化サキドリ研究校

今年度より2年間、文部科学省より「教育課程柔軟化サキドリ研究校」として指定を受け、「調整授業時数制度」を先取りして教育課程を編成・実施し、研究開発を行っていく。これにより年間40時間（3年生以上）を裁量時間と位置づけ、職員の研修のための時間（10時間）と児童の探究のための時間（30時間）に配分する。

(3) CO₂地域循環プロジェクト

本校は昨年度後半より、三次市環境政策課主導で、マツダ（株）と連携して「CO₂地域循環プロジェクト」に携わっている。

国は、「令和32（2050）年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする（カーボンニュートラル）と宣言し、その通過点として「令和12（2030）年度には平成25（2013）年度比46%削減する」という目標を立てている。

三次市は、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間で「地球温暖化対策実行計画」を立て、「第3次三次市総合計画」や「三次市地域再生可能エネルギー導入戦略」などの計画と整合を図りながら進めている。この計画は、市民や地域、事業者、行政がそれぞれの役割のもとで協力し合い、連携してCO₂の削減に取り組むことを目的としている。その一環として、「三次市環境基本計画（令和8年度～令和12年度）」を示している。この「三次市環境基本計画」は、【「環境」を暮らしのベースに置き、三次市、事業者、市民が共に「将来のみよし」を考え、創っていこう。「みんなが主役の計画」と明示されている。単に「CO₂削減」を推進するのではなく、「CO₂削減」と「まちづくり」を両立させていく取組である。

マツダは、2050年に向けてカーボンニュートラル（CN）を目指す取組をグローバルに展開しており、その一環としてCO₂回収の技術開発や研究を進めている。これは、CO₂回収を回収して再利用することで、CO₂を「排出物」から「資源」としての活用を探る取組である。

そして、三次市環境政策課が主導となり、「CO₂地域循環プロジェクト」を立ち上げた。これは、マツダの「CO₂回収技術」を活かして、「回収CO₂」を「三次市の農業」に「地域資源」として活用することで、「新たなまちづくり」につなげていこうとする構想である。

昨年度後半より、「CO₂施用により、どれだけ作物の生育に効果があるか」を検証する「CO₂地域循環プロジェクト」実証トライアルに本校も参画してきた。5・6年生がリーフレタスの栽培を行い、生育したものを収穫して試食した。1月～3月という寒冷期で短期間の実証であったため、「CO₂施用により作物はよく成長するであろう」という仮説を十分検証できたとはいえなかった。しかし、この実証トライアル参画により、児童が「CO₂地域循環プロジェクト」の意義を知ることができ、仮説の検証に今後も取り組んでいきたいという課題意識をもつことができた。

（4）探求的な学習活動としての「神すぎるタイム」

今年度も、三次市環境政策課、マツダ（株）と連携して「CO₂地域循環プロジェクト partⅡ」として本校は参画していく。昨年度の実証トライアルは限られた学年の児童による活動であった。今年度は、全校児童による「探求的な学習」として、教育課程柔軟化サキドリ研究校としての裁量時間（年間30時間）を「神すぎるタイム（神タイム）」に設定して学習を進めていく。

学習内容については、本校の研究内容【探求的な学習の過程を質的に高めていく授業づくり】に沿って、三次市環境政策課・マツダ（株）と随時連携しながら開発していく。そして他の協力機関（県立広島大学、JAひろしま、神杉自治連合会、など）の協力を得て学習を進めていく。

3 今年度の学習内容について【年間30時間】

（1）「CO₂を使って野菜を作ろう」

《課題設定》

- ・6年生から、令和7年度の「CO₂地域循環プロジェクト」について説明
- ・「CO₂を使って野菜を作ろう」にふれあい班で取り組んでいこう
- ・どんな野菜作りができそうか考える
栽培条件 ①プランター栽培 ②植付～収穫50日程度
CO₂肥料施肥の有無により生育の違いがあるかを検証する
- ・仮説と共に栽培作物を決定
ふれあい班の意見を基に、6年生で協議
全体で3～6種類、各班で4～6個のプランターで栽培

《情報収集》

- ・栽培に必要な作業、世話を調べる（インターネット、専門家の話）
- ・栽培計画を作成する（水やりの役割分担、栽培カレンダー）
- ・苗をプランターに定植する
- ・観察記録（気象データ、写真、観察シート）を取る
- ・収穫と試食

《整理・分析》

- ・観察記録からの考察
- ・試食しての考察
- ・専門家による成分分析

《まとめ・表現》

- ・栽培カレンダー
- ・仮説の検証
- ・2学期の栽培計画に向けた課題設定

4 実施にあたって

○時数の調整

サキドリ実施にあたり、「神すぎるタイム」「神すぎる研修」を行う週は、授業時数の調整を行う